

1年理科 課題4 スケッチのかき方

1年 組 番 氏名

はじめに

理科の授業では、物体の観察をする際にスケッチを行います。ただ目で見ただけでなく、観察する物体のりんかくを線で描いてみることで、そのもののかたちや特徴をよりよく理解することができるからです。

理科におけるスケッチは、美術の授業で行うスケッチとは異なります。実際に存在しているものを、正しく描くことができたかどうか、理科のスケッチにおいて重要な点です。

今回は、理科におけるスケッチをするときのポイントを紹介します。授業でのスケッチがしっかりできるよう、個人でも練習してみてください。

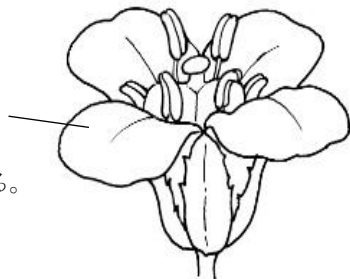
スケッチを描くときのポイント

- 観察したものの構造がよく分かるように、大きく描く。
- そのものの輪郭(りんかく)をはっきりと描く。線を重ねない。
- 言葉で説明を加える。
(スケッチでは色を塗ることができないので、言葉で記録しておくこと、より分かりやすいスケッチになります。)

例 (アブラナのスケッチ)

<良い例>

花弁(4枚)
黄色くて、花弁は
1枚1枚離れている。



コメント:

りんかくがしっかりと描かれている。
説明もきちんと書かれており、その花を見たことがない人にも、そのものようすが伝わってきます。

<悪い例>



コメント:

少し見えにくいですが、りんかくを描く線が重なっていたり、途切れていたりにしている。
また、かげは時間帯や光源の位置によって変化するため、描いてはいけません。

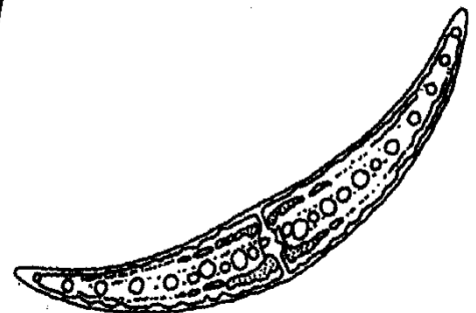
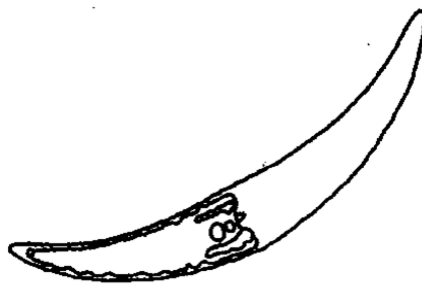
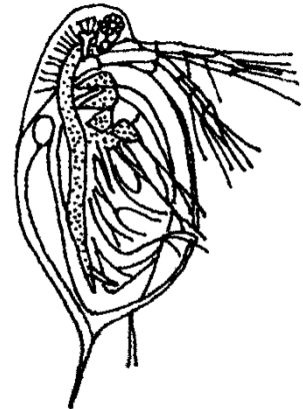
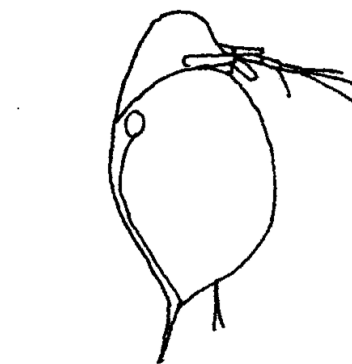
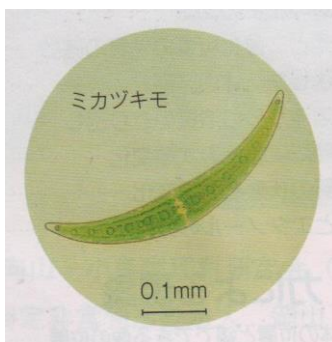
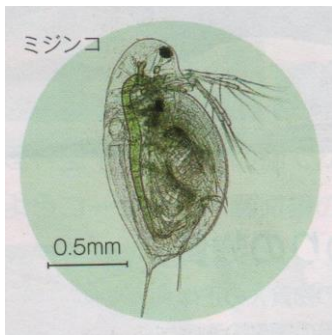
練習

(1) 1 ページ左下の良い例を写そう

【注意】 小さく描かず、四角い枠わくの中に大きくはっきりと描こう。



(2) 右のスケッチを参考にして、真ん中のかきかけの模式図を完成させよう。



(3) アブラナの花の断面をスケッチしてみよう。

